

けいはんな view



トップインタビュー

けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会
委員長 塩崎一裕氏

けいはんな、次のステージへ

けいはんな学研都市第5期ステージプラン
～ポスト万博シティけいはんな～

けいはんな発インベーション

奈良文化財研究所、理化学研究所

けいちゃん はんちゃん なあちゃんのふるさとめぐり…… 木津川市

けいはんな人物図鑑…… JUNOPARKをつくる人たち

Interview

けいはんなトップインタビュー



けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会
委員長 塩崎 一裕氏

「都市建設」から「社会実装」のステージへ

河合 塩崎先生には、昨年、「けいはんな万博2025運営協議会」の座長として、けいはんな万博2025の成功にご尽力いただいたことに続き、今回は第5期ステージプラン検討委員会の委員長として取りまとめをお願いしました。まず、今回のステージプランに込められた思いや、印象に残ったことをお聞かせください。

塩崎 けいはんな学研都市では、1980年代から概ね10年ごとに都市形成の基本計画となるステージプランを策定してきましたが、これまでの4期のステージプランは「都市建設」に重点が置かれていたと思います。

現在、けいはんな学研都市は、研究機関や大学、企業が集積し、都市として成熟の段階に入りつつあります。そして、ここから生まれた研究成果を実際の社会や暮らしの中で活用していく時期に入っており、「研究成果を社会実装する都市」へと、本当の意味でステージが変わろうとしていると感じています。検討委員会に参画された多くの委員にも、その認識が共有されていた点はとても印象的でした。

けいはんな学研都市の過去、現在、未来を考える「トップインタビュー」。
今回は、「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」の委員長を務められた奈良先端科学技術大学院大学の塩崎一裕学長にお話を伺いました。
2035年度までの10年計画の都市づくりの方向性を示す「第5期ステージプラン」に込めた思い、そして、「ポスト万博シティ」であるけいはんな学研都市への期待や可能性について自由に語っていただきました。
(聞き手は、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 常務理事 河合 智明)

万博が生み出した「横のつながり」

河合 これまでのステージプランはビジョンを示す印象が強かったと感じていますが、今回のステージプランは、より「社会実装」や実際の「行動」を意識した内容になっていますね。

塩崎 そのとおりです。背景には、昨年開催された「けいはんな万博2025」の成功があります。けいはんな万博は、「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに、けいはんな学研都市に立地する研究機関、大学、企業、自治体や住民など、多様な主体と一緒に未来社会を考え、実際に体験する機会となりました。その成功体験を通じて、これまで以上に横のつながりが生まれたと感じています。

また、けいはんな学研都市は国の「2025年大阪・関西万博アクションプラン」において、万博のレガシー（遺産）を継承・発展させる「ポスト万博シティ」に位置付けられています。

このモメンタム（勢い）の最中^{さなか}で策定された第5期ステージプランには、理念を掲げるだけでなく、「未来社会をどう実現していくのか」を具体的なアクションとして示そうという意識が反映されています。

「未来都市」「人材成長都市」「共創都市」の実現に向けて

河合 第5期ステージプランでは、けいはんな学研都市が目指す姿として「未来都市」「人材成長都市」「共創都市」という3つの都市像が示されています。実際に、ステージプランを実行する主体の一つとして、大学の役割については、どのようにお考えでしょうか。

塩崎 この3つの都市像は、いずれも大学のミッションと深く結びついています。

大学や研究機関から生まれた研究成果が社会実装されていくことは、「未来都市」の実現そのものであり、人材育成は大学本来の使命です。

また、けいはんな学研都市には多様な大学や研究機関が集積しており、それぞれが組織の壁を越えて交流し、共通の課題に取り組む土壌があります。そして大学は、国内外から様々なバックグラウンドを持つ多様な人材が集まり、共創で新たな価値を生み出す場です。ですから、ステージプランで示された3つの都市像の実現に向けて、大学は中心的な役割を果たせると考えています。



「けいはんな万博2025事業報告書」を手にする塩崎委員長と河合常務理事

多様性が新しい価値を生む

河合 先生はアメリカでも研究や教育に携わってこられました。そのご経験から、日本やけいはんな学研都市での人材育成についてお聞かせください。

塩崎 アメリカでの経験で一番大きかったのは「多様性」です。米国スクリップス研究所*で私が博士研究員として研究生活を送った研究室では、室長だけが米国人でメンバーの国籍は実に多様でした。最初は戸惑いもありましたが、多彩な文化的背景を持つ人たちが一緒に研究することで、新しい視点や多様な発想が創出され、素晴らしい成果を生み出すことができました。

*スクリップス研究所(英語:The Scripps Research Institute、略称:TSRI)生物医科学系の研究と大学院教育を行っている非営利の研究機関

奈良先端科学技術大学院大学でも、留学生や高等専門学校の卒業生など、多様な大学院生が集まっています。現在、世界約50の国や地域からの留学生が、全学生の約25%を占めています。家族的な環境の研究室で、異なる文化的な背景を持つ学生同士が協力し、共通の課題に取り組む経験は、日本人学生にとっても、将来、グローバル社会で活躍するための基盤となります。

けいはんな学研都市には、海外の研究者が所属する研究機関が数多く存在し、多様性に富んでいると同時に多文化共生が息づいています。ですから、立地する研究機関同士や学生同士の交流が広がることで、グローバル人材が育つ「人材成長都市」になっていくのではないかと思います。

「文化」と「科学」はつながっている

河合 けいはんな学研都市の正式名称は、関西文化学術研究都市であり「文化」という言葉が入っています。先生は「文化」と「科学」の関係をどうお考えでしょうか。

塩崎 ステージプランにも「文化」という言葉が入っていますが、シルクロードから運ばれた物が奈良の正倉院に保存されているように、この地域は歴史的に国際的な文化交流の拠点でもありました。実は、科学研究そのものが文化の一つの形だと思っています。



第5期ステージプラン検討委員会

けいはんな学研都市(関西文化学術研究都市)の新たな都市づくりの方向性を示す「第5期ステージプラン」(2026年～2035年度)の策定に向け、学識経験者や研究機関、関係省庁、自治体などで構成する検討委員会が2025年10月にスタート。けいはんな学研都市の今後10年間のビジョンや取組の方向性について議論を重ね、幅広い関係主体の総意のもと第5期ステージプランが策定されました。けいはんな学研都市の関係主体相互の連携・協働や個々の主体の具体的な行動指針として共有するものです。

- 第1回 2025年10月27日(月) 10:00-11:30 けいはんなプラザ3階「ナイル」
- 第2回 2026年 1月26日(月) 9:30-11:00 オンライン開催
- 第3回 2026年 3月27日(金) 13:30-15:00 けいはんなプラザ3階「ナイル」

科学によって人間の知の地平が広がることは文化への大きな貢献です。たとえば生命科学の進展によって、「いのち」や生物としての人間への理解が深まりましたし、AIの出現で、「人間とは何か」あるいは「知性とは何か」という問いが改めて浮かび上がっています。それが哲学や芸術にも大きな影響を与えています。

けいはんな学研都市は、京都・奈良・大阪という歴史文化の蓄積の上に、科学が創出する知が積み重なっていく地域です。新しい科学が、新しい文化を生み出していく——非常にエキサイティングな地域だと思います。



未来社会のモデルを提示する都市へ

河合 最後に、これからのけいはんな学研都市に期待することをお聞かせください。

塩崎 ステージプランで提示された3つの都市像を目指していくなかで、けいはんな学研都市が国内外に「未来社会のモデル」を提示する都市になれば素晴らしいと思っています。

AIや量子、ライフサイエンスなど、これから社会を大きく変える技術が次々と生まれていきます。そうした時代の中で、けいはんな学研都市が「未来社会のあり方」を実際に示しながら、研究成果を社会に実装し、人々の暮らしや幸せにつなげていく。そのような都市の実現を期待しています。

河合 まさに、「未来社会への貢献～次世代への解～」ですね。今日は貴重なお話をありがとうございました。

塩崎 一裕 しおざき かずひろ

京都大学大学院で酵母細胞生物学の研究に取り組み、1992年に理学博士号を取得後、米国スクリpps研究所で研究を継続。1998年にはカリフォルニア大学 (UC Davis) で Assistant Professorとして自らの研究室を立ち上げた。細胞内情報ネットワークの研究を進め、2002年に Associate Professor、2008年に Professor に昇任。2010年から奈良先端大に研究室を移し、教授として教育研究に携わるとともに国際担当や教育担当の学長補佐等を歴任。2021年より同大学の学長を務める。

けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会 委員 (敬称略)

委員長：奈良先端科学技術大学院大学学長 塩崎 一裕

副委員長：(公財)関西文化学術研究都市推進機構 理事長 堀場 厚

顧問：京都大学総長 湊 長博、元大阪大学総長 西尾 章治郎、京都大学経営管理大学院 特任教授 小林 潔司

学識：京都府立大学教授 (副学長) 増村 威宏、同志社大学教授 松川 真美、大阪公立大学研究推進機構特別教授 橋爪 紳也、京都大学大学院教授 出口 康夫

委員：内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿地方整備局、国土交通省近畿運輸局、京都府、大阪府、奈良県、京田辺市、木津川市、精華町、枚方市、四條畷市、交野市、奈良市、生駒市、(株)国際電気通信基礎技術研究所、(公財)地球環境産業技術研究機構、(公財)国際高等研究所、(国研)量子科学技術研究開発機構関西光子科学研究所、(国研)情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所、国立国会図書館関西館、(国研)理化学研究所革新知能統合研究センター、(公社)関西経済連合会、(株)けいはんな

次の10年へ 未来へ向けたビジョンと取組

けいはんな学研都市第5期ステージプラン ～ポスト万博シティけいはんな～

1987年の関西文化学術研究都市建設促進法の制定から約40年。けいはんな学研都市は、研究開発拠点の集積や都市機能の充実を図り、「研究」と「暮らし」が共存するサイエンスシティとして発展してきました。現在では、約160の研究機関が立地し、研究施設と住宅地が近接する特徴を活かして、単なる研究開発拠点にとどまらず、住民が主体的に参画する産・学・公・住の共創により、最先端技術の「実証都市」としての役割も強まっています。

2025年の大阪・関西万博では、「未来社会の実験場」という理念のもと、最先端技術の社会実装が世界的に注目されました。けいはんな学研都市でも「けいはんな万博2025」を通じて、研究機関、企業、大学、自治体、住民などの多様な主体が連携し、未来社会を体験・共創する取組が展開され、エリア全体の一体感醸成や、新たな連携の広がりが芽吹いています。

ビジョン

ポスト万博シティとして目指す未来

第5期ステージプランでは、けいはんな学研都市が2つの役割を果たし、3つの目指すべき都市像を実現することで、日本や世界が直面する社会課題の解決へ貢献することをビジョンに掲げています。

果たすべき役割

- 世界の未来への貢献
- 多様な知と文化の融合による新たな価値創造

目指すべき都市像

未来都市

科学技術と生活が融合した未来社会を先導するため、先端技術の研究成果を現実社会に活用し、持続的に発展する都市



人材成長都市

イノベーション創出の原動力となるクリエイティブな人材が集い学び、挑戦し、成長、活躍できる都市

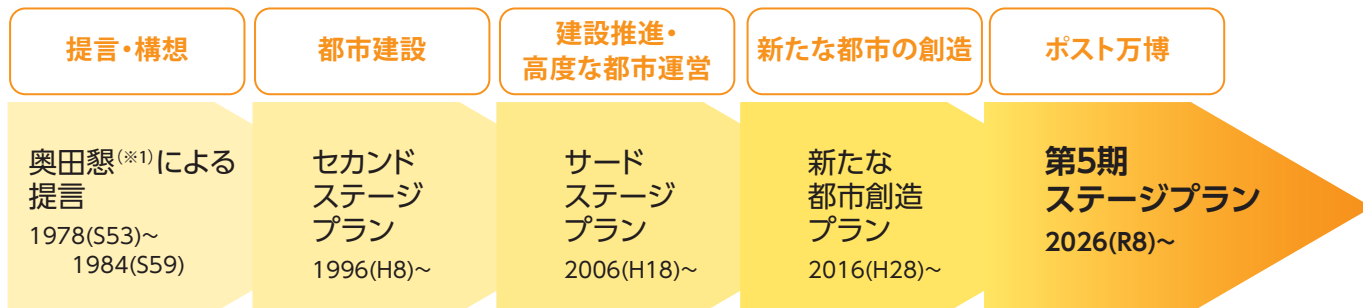


共創都市

大阪・関西万博を契機に集積された技術を発展させ、異なる価値観が交差し、新たな連携・交流が生まれる都市



学術研究機関や企業の開発拠点の集積を基盤に研究成果を実際の街の中に実装し、暮らしの中で活かしながら、新たな価値を創出する都市へ――。



けいはんな学研都市は、ポスト万博シティ^(※2)としての役割を受け、新機軸として、実証都市としての強み等をさらに発展させ、研究成果を早期に社会実装していくことで、都市の建設を主とするステージから研究成果等の活用・拡大を図っていくステージへの進化が求められています。

その役割を果たしていくため、2026年度から次の10年に向けた「第5期ステージプラン」を策定しました。

(※1) 1978年に発足した「関西学術研究都市調査懇談会」の通称。座長は京都大学の元総長・奥田東氏

(※2) 国の定める「大阪・関西万博アクションプラン (Ver.5)」において、「けいはんな学研都市 (関西文化学術研究都市)」が「ポスト万博シティ」として位置付けられています。

取組の柱

未来を実現するための挑戦

第5期ステージプランでは、目指すべき3つの都市像を掲げたビジョンの実現に向けた取組を推進していきます。合わせて、推進体制の見直し等を行い新ビジョンを推進する仕組みづくりに取組みます。

社会課題の解決につながる
研究成果を
社会実装

イノベーションを
推進する
交流連携と
情報発信

科学技術と
結びついた
新たな
文化創造

都市形成と
交通アクセスの
利便性向上

その先にある2036年

AIが暮らしを支援し、次世代モビリティが地域をつなぎ、子どもたちは最先端技術に触れながら学ぶ。国内外の研究者やスタートアップが集まり、新たな共創、新たな価値や文化が生まれる。そして、研究機関だけでなく、住民一人ひとりが未来社会づくりの担い手となる街。

けいはんな学研都市は、AI、ロボット・アバター、フードテック、モビリティなどの先端技術が暮らしや社会に広く展開・定着する「未来社会」を先導する役割を果たしていきます。

第5期ステージプラン



<https://www.kri.or.jp/future/>

未来のまちづくりや新しい産業は、研究者や企業だけでなく、そこに暮らす人々の声からも生まれます

Clubけいはんな会員 4,000名突破!



「Club けいはんな」は、けいはんな学研都市や周辺地域にお住まいの方々、学研都市を応援して下さる々々による住民サポーター組織として、2016年11月に発足し、2026年に10周年を迎えました。

産・学・公・住の連携に加え、木津川の氾濫等を想定し、スマートフォンの避難情報に従って避難先(精華中学校、精華台小学校)まで徒歩で避難しました。

4,000名突破記念イベント

この節目を記念し、積水ハウス株式会社とのコラボレーションにより、木津川市に2025年8月にオープンしたJUNOPARKの見学・体験ツアーを2026年3月に開催しました。

募集定員の180名を上回る応募があり、体験型プログラムを通じて会員同士の交流が深まり、「Clubけいはんな」が住民参加型のオープンイノベーションの場として定着してきたことを実感する機会となりました。

今後も、会員の皆さまとともに、けいはんなから新たな価値の創出に取り組んでまいります。



これも資源になるのね?!



どの壁紙が良いかな?



住民の皆様へ

会員募集

あなたの声が、未来のまちや産業につながる

Clubけいはんなは、アンケートやワークショップ、実証実験などを通じて、まちづくりや産業創出に関わるコミュニティです。学生・新社会人の方はもちろん、地域にお住まいの方など、どなたでも参加できます。参加無料・スマホで簡単登録。ポイント付与などの謝礼もあります。

Clubけいはんな
入会はこちらから

<https://admin.prius-pro.jp/m/club01/user.php?a=1>



ぜひ、Clubけいはんなの一員として、未来づくりに参加してみませんか。



Club けいはんなサポートサービスの活動紹介

Clubけいはんなサポートサービスは、企業・大学・自治体等の研究開発・新ビジネス創出に、Clubけいはんな会員の生活者目線を組み込むサービスです

避難誘導アプリを使ったフィールド実証

スマートシティ実現に向けたプロジェクトの一環でNTTコミュニケーションズ株式会社(現NTTドコモビジネス株式会社)が開発した避難誘導アプリを活用した住民参加型の避難訓練にClubけいはんな会員154名が参加しました。

木津川の氾濫等を想定し、スマートフォンの避難情報に従って避難先(精華中学校、精華台小学校)まで徒歩で避難しました。



デジタルツイン技術を活用した車両避難シミュレーション

国土交通省のスマートシティ実装化支援事業として、ダッソー・システムズ株式会社によるデジタルツイン技術を活用した車両避難シミュレーションと避難訓練を実施しました。

交通状況や避難経路、駐車場の収容能力を可視化・分析し、現実に応じた避難方法を検証しています。

会員アンケートをもとにワークショップも開催し、避難準備時間など実際の行動分析を行いました。



車両避難訓練の様子



避難訓練後の評価

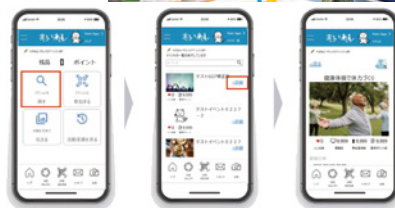
地元密着型スマートフォン向けアプリ

地域密着型のスマートフォン向けアプリをテーマにワークショップを開催し、地域情報の発信やコミュニティ活性化につながる新たなコミュニケーションツールの可能性を検討しました。

「次世代のけいはんなのアプリ開発に住民の声を反映させる」ことを目的に、利便性向上や情報共有に必要な機能や課題について議論を行いました。



ワークショップの様子



アプリの実際の画面

研究機関・企業・行政の皆様へ

ご利用企業募集

Clubけいはんなサポートサービスは、アンケート調査やワークショップ、実証実験などを通じて、企業・大学・自治体等の研究開発やサービス検証を支援する取り組みです。

地域住民の視点や実感を取り入れ、新たなサービスや事業創出につながる“マーケットの本質”の把握を支援しています。

今後も、多くの企業・大学・自治体等にご利用いただき、けいはんなから新しい価値や社会実装モデルを発信してまいります。

その他、Clubけいはんなの活動事例はこちら

<https://www.kri.or.jp/rdmm/club/folder/>



Clubけいはんなサポートサービスご利用はこちら

https://www.kri.or.jp/conso/club_2/club.html



生活者目線を
研究開発に
活かしてください!



ふるさとめぐり

木津川市編

けいはんな学研都市の8市町をめぐり、魅力的なふるさと納税返礼品を紹介するよ!

クローバー牧場

戦後、初代の経営者が『食の大切さ』を身に沁みて体験したことから始めたという、クローバー牧場。木々や自然に囲まれたこの牧場では、とても濃厚で甘く、牛乳が苦手な人でも飲みちゃうぐらい美味しいミルクが搾られているよ。「家族のように大切に牛たちを育て、日々向き合っています。おいしい牛乳のために、牛にストレスがかからないよう健康管理を徹底することを心がけています」と、現在牧場を営んでいる松本さんが教えてくださったよ。



ストレスや体調の変化によって牛乳の味も変わってしまうので、体調の変化を見極めてエサの配合や牧草の多さを変えているんだそう。「エサだけでなく飲み水にもこだわっています。地下からくんだ井戸水が牛の前を川のように流れていて、きれいで美味しいお水が飲めるようになっているんですよ」とのこと。そうして搾乳された牛乳は低温殺菌され、空気にふれずにボトルに詰めて出荷されるよ。本来の甘さが感じられる濃厚な味わいの牛乳、みんなもぜひ味わってみてね!



ふるさと納税お返し

返礼品には、クローバー牧場で生産された『くろーばーみるく』や『くろーばーよーぐると』のセットがある。毎月2回届けられる定期便コースも!

オススメの返礼品いろいろ

木津高校の紅茶ギフトセット (京都府立木津高等学校)



宇治茶の産地で農業を学ぶ高校生が、実習で心をこめて作ったお茶のギフトセット。オリジナルブレンド3種類の詰め合わせ。

ことことビール12本セット (ことことビール)



酒蔵の経験と技術を盛り込み、それぞれのビールの特徴を最大限に生かした、ことことビールを代表するオリジナルクラフトビールセット。

ねぎに恋するコロッケ・メンチボール (秋田農園)



ねぎ農家が企画・立案をした、ねぎ好きのための贅沢セット。ねぎの旨味と栄養がたっぷりの『コロッケ』と『メンチボール』が両方楽しめる。

小嶋織物

「木津川市って実は織物襖紙・織物壁紙の産地なんです。明治から大正にかけて生産が始まった襖地・蚊帳、そして明治中期頃から奈良で作られていたふすま紙の技術が今も受け継がれています」と教えてくださったのは小嶋織物株式会社の取締役・小嶋恵理香さん。JR上狛駅すぐそばの工場では、いくつもの工程を経て織物壁紙が製造されていたよ。たくさんの機械を通して織物がみるみるうちにできあがっていく様子は圧巻！でも特に印象的だったのは、織り上がった生地の本一本を職人さんが手作業で微調整し



ふるさと納税お話し

返礼品は小嶋織物が手がけた『壁紙』や『ふすま紙』のほかに、消臭抗菌効果のある『柿渋ふきん』、麻を使った軽くてしなやかな質感の『トートバッグ』なども用意されているよ。

ているところ。こうした人の手による技術で、上質な壁紙は作られているんだね。紙でできた糸や天然の素材を使ったデザインが特徴で、ホテルや高級ブランドの店舗で使う壁紙を特注されることも多いんだとか。「わたしたちの布と紙を貼り合わせる技術を使うと、色んな地域・産地の織物も壁紙に仕上げることができます。この技術で、世界の織物産業を盛り上げていけるのではと考えています！」と小嶋さん。現在、製造された壁紙の半分は海外へ輸出されているんだって。大きな可能性を秘めたものづくりの技術が木津川市から世界へ広がっていくなんて、なんだかほくも嬉しいな！

INFORMATION

くにきゅうせき

恭仁宮跡が特別史跡に昇格！

今から約1,300年前に、聖武天皇は平城京から現在の木津川市域の恭仁京へと都を移し、恭仁京の中核部である恭仁宮が加茂町の瓶原におかれまして。

首都であったのはわずか3年余りですが、現在の教科書にも載っている「国分寺建立の詔」や「墾田永年私財法」が定められるなど、歴史上の重要な舞台となりました。



令和8年2月には史跡恭仁宮跡(山城国分寺跡)が「遺跡の国宝」ともいうべき特別史跡に指定されました。京都府内での特別史跡の指定は、昭和31年の鹿苑寺(金閣寺)庭園の指定以来で、約70年ぶりの4件目の指定となります。

ふるさと納税の
お申し込みは
こちらをご覧ください。



イラスト・記事制作 おおえさき

イラストレーター、マンガ家、ラジオDJ。京都市出身。
著書『ショート・ショート・キョート』発売中。
FMKYOTO『FLOWER HUMMING』
毎週日曜20時からOA中。
SNSにて作品更新中！ X / Instagram @ohyeah_saki

森から文化財へ

年輪年代学的木材産地推定による森林開発・木材利用史の解明

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所



木の文化を支えてきたヒノキなどの木材は、どの地域から、いつ、どのように供給されてきたのでしょうか。

本研究では、木造文化財に用いられた木材を対象に年輪年代学的な産地推定を行い、その結果をもとに、過去約2000年間にわたる森林開発と木材利用の実態を明らかにすることを目指しています。

見えにくくなった森林と資源の歴史

我が国の木造文化財に用いられている主要樹種は、ヒノキを代表とする温帯性針葉樹です。しかし、これらの樹種が成立していた森林の分布は、歴史時代における人間活動によって大きく改変されており、当時の森林分布や木材資源の利用状況を直接把握することは困難となっています。

従来、日本の前近代における森林開発や木材利用に関する理解は、主として文献史料に基づいてきました。その結果、平城京建設に代表される畿内での大規模需要を背景とした「古代

の略奪」や、近世における全国的な「木材枯渇」といった歴史認識が研究史の中で形成されてきました。17世紀以前の森林利用については、林地保護や資源回復に十分な配慮を伴わない採取林業が中心であったとする見方が一般的です。

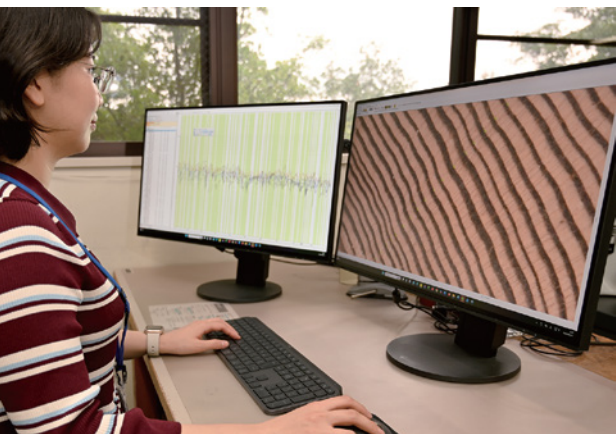
年輪が語る木材の出自

年輪年代学は年単位の精度で年代を測定する手法として知られていますが、近年では樹木の年輪成長が地域ごとの気候条件に応じて変化する特性を利用し、古気候の復元や、木材の産地推定にも応用されています。ヨ一

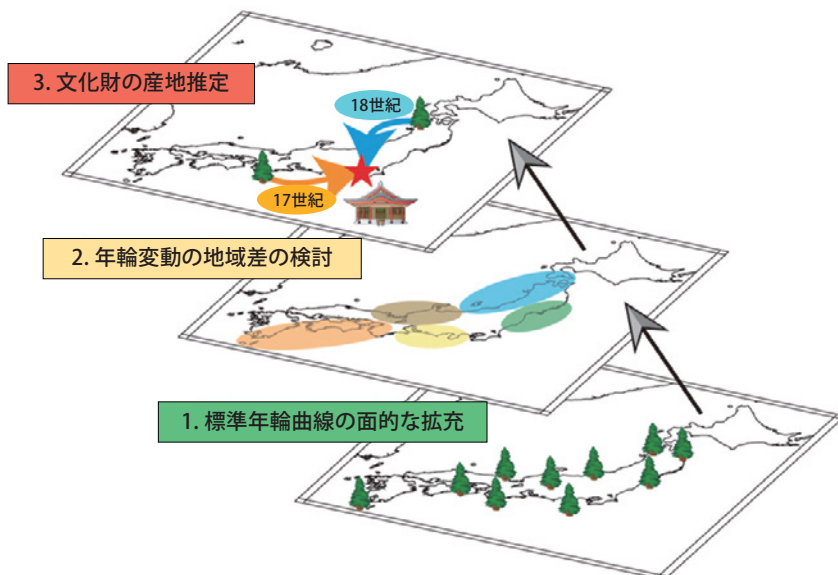
ロッパでは、広域的に整備された標準年輪曲線のネットワークを基盤として木材の移動経路を復元する研究が進められており、中世ハンザ同盟都市間の木材流通の実態解明など、歴史学的にも重要な成果が蓄積されています。

日本における研究基盤の進展

これに対し、日本では年輪年代学の主な用途が暦年代の決定に限られてきました。しかし、近年、私たちは中部地方のヒノキ科樹種について過去2000年以上に及ぶ標準年輪曲線を構築するなど、木材産地推定のための基



研究室での年輪分析



年輪年代学的木材産地推定の概要



奈良文化財研究所

Nara National Research Institute for Cultural Properties

盤整備を進めています。また、地域差に着目した標準年輪曲線についても、過去約1000年を対象に各地で構築が進展しており、年輪年代学的な木材産地推定の実用化が現実的な段階に入ってきています。

このような研究基盤の進展が見られるにもかかわらず、日本における年輪年代学的な木材産地推定の研究は、いまだ十分に展開されているとは言えません。標準年輪曲線のさらなる整備と適用が進めば、木材の供給圏や流通経路、さらには森林資源開発の過程を、実証的に再構築することが可能になると期待されます。



歴史的建造物の年輪調査

木材利用史の再構築と未来への示唆

環境との調和が求められる現代社会において、人間と自然との関係の歴史の変遷を明らかにすることは、環境史や資源利用論の観点からも重要な課題です。私たちは、木造文化財に残された年輪情報を手がかりとして木材利用の実態を検証することによって、自然資源の利用のあり方について歴史的な視点を提示し、現代社会への示唆を与えることを目指しています。



奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター年代学研究室 星野 安治 室長
<https://www.nabunken.go.jp/org/maibun/dating.html>



エレベーターの「気まずさ」を変えるロボット

国立研究開発法人 理化学研究所



POINT

エレベーター内の「気まずさ」をやわらげる—

そんな新しい役割をもつロボットの可能性を探る実証実験が、けいはんなプラザで行われました。人に直接話しかけるのではなく、「ロボット同士の対話」を通じて人と人をつなぐ、新たなコミュニケーションの形を検証しています。



事業内容と取り組みの概要

2026年5月8日(金)～5月22日(金)、けいはんなプラザ(京都府精華町)内のエレベーターに対話ロボットを設置し、提供した情報に対する関心度合いや、その場の雰囲気を与える影響を探る実証実験を実施しました。ロボットの対話を観察した人に対するアンケート調査により、これらの点を調べています。その結果もふまえ、人が受け入れやすい情報提供や、人と人をつなぐ上で、対話ロボットに必要な機能の検討に取り組んでいます。

研究の背景と、技術・手法の特徴

ロボットが対話する相手は、人だけでなくとどまらず、別のロボットも対象になり得ます。ロボット同士が対話する場合、ロボットが人に直接話すわけではありませんが、その対話内容は周囲の

人にも影響を与えます。本研究では、その影響を積極的に利用することを考えました。具体的には、情報提供や人同士の関係性の構築・促進の効果がある可能性が考えられます。

本研究開発では、けいはんなプラザラボ棟エレベーター4基のうちの1基に対話ロボット「コミュ」を2台設置しました。対話生成にはAIを利用し、公共スペースの周辺情報をロボット同士の対話に織り交ぜ、周囲の人に提示しました。

社会へのインパクトと今後の展望・具体的な貢献

ロボット同士の対話による情報提供については、ロボットが人に直接話しかける場合に比べ、受け入れやすい可



視察後、アンケートに答える小林文部科学副大臣

能性が考えられます。人同士の関係性については、ロボット同士の対話が、人同士の関係構築を促進することを期待しています。特にエレベーター内では、まだ親しくない人同士が乗り合わせると、気まずい雰囲気になることがあります。ロボット同士の対話が、このような気まずさを和らげ、人同士の関係構築を促進する可能性が考えられます。このような研究開発を通して、今後も人と関わり、人と人をつなぐロボットの実現を目指します。

理化学研究所 情報統合本部インタラクティブロボット研究チーム
https://www.riken.jp/research/labs/r-ih/guard_robo_proj/interact_robo/index.html



けいはんな 人物図鑑

住から、心が育まれる。

— けいはんな・ジュノパークJUNOPARKで出会う、自分なりの「好き」 —

子どもが「楽しい」「好きだな」と感じる瞬間には、その子自身の感性が息づいている—— JUNOPARKに関わる中で、その場面に何度も立ち会ってきました。体験を通して自分なりの「好き」や「大切に」気づき、それが少しずつ“自分らしい幸せ”へとつながっていく。私たちはそのような場をつくることを目指しています。



<https://www.sekisuihouse.co.jp/junopark/>

見守る力が、学びを深める

そうした体験を支えているのが、現場に立つスタッフの存在です。十数名のスタッフが役割を分担し、プログラム運営や安全管理、子どもたちへの声かけを行っていますが、その関わり方には共通した姿勢があります。答えを教えるのではなく、一歩引いた距離から見守ること。オープン前から、「大人が介入しすぎない環境をどうつくるか」が大きなテーマとなっていました。

実際に子どもたちと接する中で見えてきたのは、少しの“余白”があることで、子どもたち自身が驚くほど主体的に動き出すということです。スタッフは、必要なときだけヒントを渡し、あとは子どもたちの試行錯誤に委ねる。その関わりが、「もう一回やってみよう」「次はこうしてみよう」という前向きな循環を生んでいます。

JUNOPARKが位置するけいはんな地域は、研究や学びの知が暮らしのすぐそばにある場所です。このフィールドだからこそ、少し専門的に見えるテーマも、「気になる」「やってみよう」という感覚から自然につながります。子どもたちは体験を通じて、自分なりに日常との関わり方を広げていきます。

自分なりの「好き」や「大切に」気づくことは、子どもが自分自身を知る第一歩です。今日の「楽しかった」は、やがて感性を育て、その先の「自分らしい幸せ」へとつながっていくことでしょう。

答えを教えるのではなく、一歩引いた距離から見守る。

JUNOPARKをつくる人たち

子どもの「好き」が育つ場所

こうした場が必要だと考えた背景の一つに、子どもたちを取り巻く環境の変化があります。学校外での体験機会の減少等により、「何が好きか」「どうありたいか」といった感覚に向き合う時間が十分に確保されにくくなっています。JUNOPARKは、「住まい」という身近なテーマを入口に、そうした課題に応える場として構想した施設です。

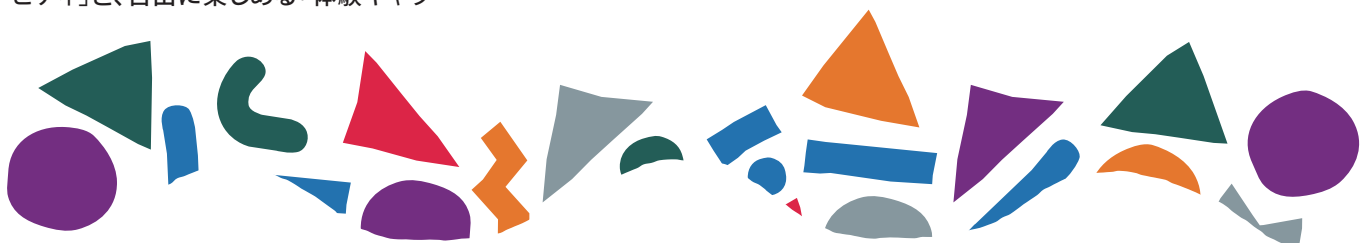
“住”を入口に、感性をひらく体験

施設は全4階で構成され、有料の体験エリアと、誰でも利用できるパブリックエリアに分かれています。体験エリアでは、授業形式で取り組む45分の「体験アクティビティ」と、自由に楽しめる「体験ギャラ

リー」を用意。自己を表現する、論理的に考える、多角的な視点で捉えるなど、暮らしに根ざした6つの感性を、子どもたちは手を動かし、仲間と話しながら試行錯誤を重ね、自分なりの考えにたどり着きます。

試して、迷って、見つける 「自分の答え」

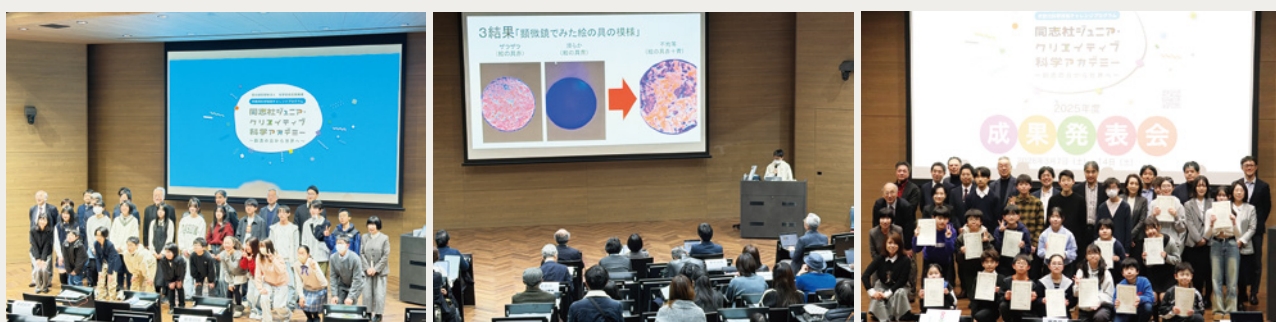
例えば、構造物を組み立てる体験では、うまくいかなかったグループが、形を工夫することで安定した構造をつくり上げる場面がありました。また別の体験では、「分けてみたらゴミではなくなる」と気づく子どもいました。どちらも、教えられた正解ではなく、自分の中で腑に落ちた実感として残っていく点に、この体験の価値があると感じています。



自分なりの「なぜ？」を深める 同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミーが 成果発表会を開催

2026.3.7,14

同志社大学京田辺キャンパスで「同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー」成果発表会が開催されました。本プログラムは、同志社と京都・けいはんな地域の企業が連携し、小中学生が先端科学や伝統技術の現場で学ぶJST採択事業です。半年間にわたる探究活動の成果として、約40名の小中学生が研究内容をスライドにまとめ、発表しました。摩擦の法則や紙とインクの関係、ICカード素材の分析など、企業訪問での実験や体験をもとに、自分なりの「なぜ？」を深めた研究が数多く見られました。子供たちは、実験結果をグラフやデータで示しながら、多くの聴衆を前に堂々と発表していました。「答えのない問い」に向き合い、試行錯誤を重ねながら探究を進める姿からは、「尖った研究者のタマゴ」としての大きな可能性が感じられました。



同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー
https://www.doshisha.ed.jp/jrc_academy/



京都現場AI・OTセキュリティ／データ連携協議会 設立シンポジウムを開催

2026.3.24

京都府では、「京都現場AIインフラ・OTセキュリティ※/データ連携協議会設立シンポジウム」を開催しました。

近年、企業へのサイバー攻撃が増えており、製造業の現場でもオンライン接続機器の活用が進む中、AI活用とセキュリティ、データ連携を一体で捉えた対策が喫緊の課題となっています。シンポジウムでは、車のカーナビが容易にハッキングされる様子も紹介され、現場に潜むリスクと対策の重要性が強く印象づけられました。

本協議会は、昨年けいはんなオープンイノベーションセンターに拠点を開設した(一社)AKATSUKIと連携して設立し、地域企業の事業継続力や信頼性の向上等を目指すものです。今後は、経営層向けセミナーの開催をはじめ、ハッキング等を想定した実践的な訓練、人材育成・教育プログラムの実施、企業間での共同実証や情報共有の推進などを通じて、地域全体でのセキュリティ対応力の底上げを図っていきます。



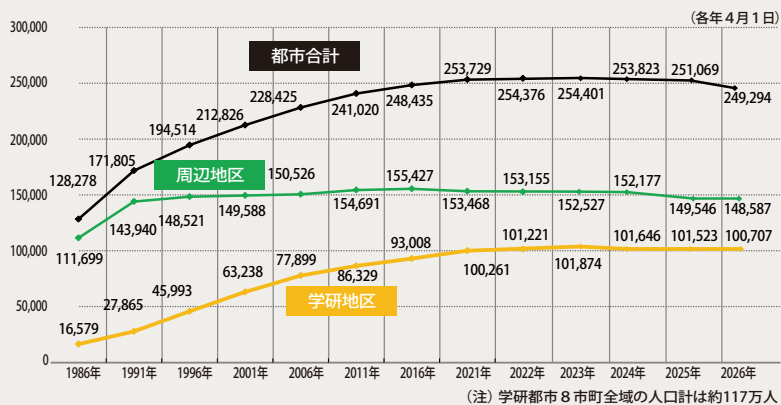
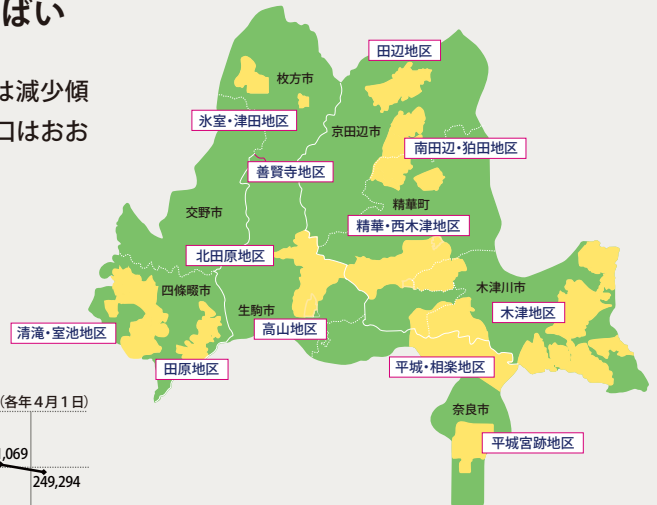
山下京都府参与篠原(一社)AKATSUKI代表理事等によるパネルディスカッション

※OT (Operational Technology) セキュリティ:

パソコンや情報システム (IT) ではなく、工場の生産設備などを動かすシステム (OT) を、サイバー攻撃から守るための対策。

けいはんな学研都市の人口249,294人 クラスター(文化学術研究地区)の人口はほぼ横ばい

けいはんな学研都市がある地元行政地区(8市町)の合計人口は減少傾向にあります。一方、クラスター(文化学術研究地区)内の合計人口はおおむね横ばいで推移しています。



2026年4月1日現在

文化学術研究地区 100,707人
周辺地区 148,587人
都市合計 249,294人

香港で広がる、けいはんなと世界のつながり InnoEX2026でけいはんな学研都市の取組をPR

2026.4.13-16

京都府では、香港貿易発展局との連携協定に基づき、スマートシティ分野を中心とした交流・連携を推進しています。その一環として、香港で開催されているアジア最大級のIT見本市「InnoEX2026」に出展し、KGAP+※やClubけいはんななど、特色ある取組を紹介し、けいはんな学研都市の魅力を広く発信しました。

会期中は多くの来場者がブースを訪れ、けいはんな学研都市の取組に対して高い関心が寄せられるとともに、香港をはじめとした各国の企業・機関との交流を通じて、今後の連携につながる関係構築を図りました。

さらに、香港の主要なイノベーション拠点であるサイエンスパークやサイバーポートを視察し、企業集積や支援機能、国際連携の在り方について知見を得るとともに、今後の協業の可能性について意見交換を行いました。

今回香港で築いたネットワークや得られた知見を活かし、スマートシティに関する重点分野での国際連携を一層強化することで、新たなイノベーションやプロジェクトの創出が広がっていくことが期待されます。

※KGAP+(Keihanna Global Acceleration Program Plus):

(株)国際電気通信基礎技術研究所が2019年に開始したスタートアップ支援プログラム。けいはんな学研都市の実証実験環境を活用し、国内外スタートアップの日本展開や企業連携を促進するため、実証(PoC)支援、ビジネスマッチング、メンタリング等を一体的に提供する。



第17回けいはんな万博セミナー（ファイナル） 未来創造セッション2026～ポスト万博シティの共創～を開催

2026.4.17

けいはんな万博セミナーでは、2022年5月から「けいはんな万博2025」開催に向けて、けいはんなから何を発信するのかを検討するため、最先端の科学技術に加え、自然・文化・歴史、社会課題など多角的なテーマについて、産・学・公・住が一堂に会し議論を重ねてきました。2024年からは、未来社会を共に考え創り育てる「未来創造セッション」へと発展し、世代や立場を超えた多様な参加者によるトークセッションを実施しました。

ファイナルセミナーでは、「けいはんな万博2025」のダイジェスト映像に続き、7つの部会や大学サミット、新けいはんな風土記、テーマ曲などの取組を振り返り、参画された皆様が万博への想いをリレー形式で語り合いました。最後に「けいはんな宣言」と「第5期ステージプランの概要」を紹介し、交流会を経て盛会のうちに終了しました。ポスト万博シティ『けいはんな』の実現に向けて、今後も多様な皆様との共創を深め、夢と希望に満ちた未来都市の創造を着実に進めてまいります。



木津川市学研木津北地区の活動が 自然環境功労者環境大臣表彰を受けました 「自然共生サイト」に認定された「かせやまの森」一帯の自然環境保全

2026.5.13

「自然共生サイト」は民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域を環境省が認定する新しい制度です。2023年度の開始以来、当初の目標を大幅に上回る500か所以上が認定されており、現在は更なる拡大と質の向上が図られています。

「かせやまの森」（木津北地区、民有地も含め148%の広大な里山）は複数の活動団体の里山再生や生物多様性に対する取り組み、また地域住民を巻き込んだ里山の利・活用等を踏まえ、京都府、木津川市の尽力により、2024年度にその認定を受けました。

一方、環境省では2007年度から環境保全に対する貢献者（個人・団体）を大臣表彰しており、今般「令和8年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰」に全国の個人・団体と共に鹿背山倶楽部が選定されました。「かせやまの森」でのヤマトサンショウウオの生育環境保全や観察活動、竹林整備、田畑の復元維持、復元田を生かした親子里山農業体験等、長年にわたる多様な里山環境保全活動が評価されたものです。

「かせやまの森」では鹿背山倶楽部の他に10団体が各々の活動場所を中心にそれぞれのテーマでユニークな活動を展開しており、また木津川市都市計画課を事務局に「地域連携保全活動応援団」を結成し、「かせやまの森」全体での保全・活用計画を進めており、これらの団体や市の取組が評価された結果といえます。



写真左：青山環境副大臣と鹿背山倶楽部 加藤会長
写真右：復元した水田の田植え前の代（しろ）かき作業

鹿背山倶楽部
[https://kaseyamaclub.
main.jp/](https://kaseyamaclub.main.jp/)





けいはんな未来フェス

けいはんな万博2025の成果を未来へー
「オータムフェア」が、「けいはんな未来フェス」へと進化します。
2026年のテーマは「けいはんな、未来を動かす！」
けいはんな発の多彩なイベント情報をWebで随時お届けします。

詳しくはWebへ



https://www.kri.or.jp/know/mirai_fes.html

日時	イベント	会場	主催
7月16日(木)	けいはんなサイエンスカフェ	けいはんなプラザ	関西文化学術研究都市推進機構
7月28日(火)~30日(木)	けいはんなロボット体験教室	けいはんなプラザ	けいはんな学研都市活性化促進協議会
8月1日(土)	けいはんな ふれあいコンサート2026	けいはんなプラザ	けいはんな ふれあいコンサート 実行委員会 
8月6日(木)	地球温暖化について学ぼう! 夏休み工作・実験教室	地球環境産業 技術研究機構 (RITE)	地球環境産業技術 研究機構 (RITE) 
8月6日(木)・7日(金)	同志社大学理工学部 「わたしのサイエンス」サマーキャンプ	同志社大学	同志社大学 理工学部 
8月8日(土)	劇団四季ファミリーミュージカル 『はじまりの樹の神話~ こそあどの森の物語』	けいはんなプラザ	(株)けいはんな <small>撮影:阿部章仁</small> 
8月21日(金)~23日(日)	万博レガシーイベント	ATCホール	(株)りそな銀行
8月23日(日)	けいはんな本気講座 「はじめての上方落語」	けいはんなプラザ	けいはんな学研都市活性化促進協議会
8月 未定	若手研究者交流会		関西文化学術研究都市推進機構
8月 未定	IIAS交流の会		国際高等研究所
9月3日(木)	けいはんなフェア2026 in 大阪	グランフロント大阪	関西文化学術研究都市推進機構、 京都府、大阪府、奈良県、関西経済連合会
9月4日(金) 11日(金) 18日(金)	けいはんな学研都市7大学連携 市民公開講座2026	国立国会図書館 関西館	関西文化学術研究都市推進機構、 国立国会図書館、 奈良先端科学技術大学院大学、 同志社大学、同志社女子大学、 大阪電気通信大学、京都府立大学、 奈良学園大学、京都大学
9月19日(土)	ピアノカの魔術師 マジカルコンサート	けいはんなプラザ	(株)けいはんな
9月26日(土)	観月の夕べ	けいはんな記念公園	けいはんな記念公園
9月27日(日)	けいはんな寄席「桂米朝一門会」	けいはんなプラザ	けいはんな学研都市活性化促進協議会
10月8日(木)・9日(金)	京都スマートシティエキスポ2026	けいはんなプラザ	京都スマートシティエキスポ運営協議会
	オープンラボ・テックツアー		関西文化学術研究都市推進機構
	ATRオープンハウス2026	ATR	(株)国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)
10月27日(火)・28日(水)	フードテックエキスポ2026	みやこめっせ	京都フードテック協議会
11月7日(土)	けいはんなR&Dフェア2026	けいはんなプラザ	けいはんなR&Dフェア2026実行委員会
	アバターチャレンジ2026	精華大通りほか	特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ



編集・発行 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
関西文化学術研究都市建設推進協議会
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ・ラボ棟3階
TEL.0774-95-5105 FAX.0774-95-5104



読者アンケートに
ご協力ください

発行責任者 森 忠彦
ホームページ <https://www.kri.or.jp/>

制作・印刷 株式会社チャンピオンシップス



表紙写真 JUNOPARK (ジュノパーク)

学び(エデュケーション)と楽しさ(エンターテインメント)を融合した“住育エデュテイメント”施設です。子どもたちの感性を育むことを理念に、住まいや環境をテーマとした多彩な体験型アクティビティを展開。小学校高学年から中学生を中心に、小学校低学年も楽しめるエリアがあり、家族で新たな発見と学びの時間を過ごしていただけます。